

公 民

1 学習指導と評価における課題

公民科においては、社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて、改善が目指されてきた。

一方で、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。また、社会的な見方や考え方については、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていないことや、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと等も指摘されている。

また、観点別学習状況評価について、特に高等学校においては、知識量のみを問うペーパーテストの結果や、特定の活動の結果などのみに偏重した評価が行われているのではないかと懸念が示されている。

これらの課題を踏まえるとともに、これからの時代に求められる資質・能力を視野に入れば、公民科では、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育てていくこと及びそのための学習指導と評価の一層の充実が求められる。

2 育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導・評価の改善・充実

(1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

平成28年8月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会が公表した「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（以下、「審議のまとめ」。）において、公民科では地理歴史科とともに、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することとした。

現行の学習指導要領においても、公民科の目標は、「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」こととされ、『高等学校学習指導要領解説 公民編』には、「公民としての資質」について、次のことが示されている。

「公民としての資質」とは、現代の社会について探究しようとする意欲や態度、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として、社会についての広く深い理解力と健全な批判力とによって政治的教養を高めるとともに物心両面にわたる豊かな社会生活を築こうとする自主的な精神、真理と平和を希求する人間としての在り方生き方についての自覚、個人の尊厳を重んじ各人の個性を尊重しつつ自己の人格の完成に向かおうとする実践的意欲を、基盤としたものである。また、これらの上に立って、広く、自らの個性を伸長、発揮しつつ文化と福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加、協力する態度とを含むものである。

「公民としての資質」を養うためには、各科目の専門的な知識、概念や理論及び倫理的な諸価値や先哲の考え方などについて理解させるとともに、習得した知識や概念、技能などを用いて、各科目でまとめとしてそれぞれの特質に応じた諸課題について探究させることを通して、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したり、討論したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を成長させることとしている。

こうしたことを踏まえると、次期学習指導要領を見据えた指導を行うに当たっては、まず、現行の学習指導要領を確実に実施することが重要であると言える。

(2) 学びの過程を重視した単元の指導と評価

次期学習指導要領に向けた審議において、公民科において育むことが求められる資質や能力は、知識、概念や技能を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されるものと考えられることから、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められている。

現行の学習指導要領においては、「確かな学力」のバランスのとれた育成のため、習得・活用・探究という学びの過程の中で、グループなどで話し合い発表し合うなどの言語活動が重視されており、次期学習指導要領を見据えながら、言語活動の充実を一層図ることが必要である。

その上で、観点別学習状況の評価を確実にを行うため、①単元ごとの学習指導のねらいが明確になっていること、②その学習指導のねらいが実現されたとき、生徒がどのような状態になっているかが具体的に想定されていること、③学習指導のねらいが実現されたかどうかを評価する方法、手段が準備されていることが重要である。

(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善

「審議のまとめ」では、授業改善の取組を活性化することをねらいとして「主体的・対話的で深い学び」、すなわち「アクティブ・ラーニング」の視点を、各教科等で共有することを目指すことが示され、公民科における授業改善の視点は次のように示された。

【公民科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて】

○ 主体的な学びについて

生徒が学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。

○ 対話的な学びについて

例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘される場所であり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。

○ 深い学びについて

「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。

次に、「アクティブ・ラーニング」の視点から工夫を図った、1 単位時間の学習・指導方法や単元の評価問題の例を示す。

ア 「現代社会」の学習・指導方法の例

<学習指導案の例>

1	単 元 名	現代の民主政治と政治参加の意義		
2	単 元 の 目 標	基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性和民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。		
3	本 時 の 目 標	基本的人権の保障の充実と発展が民主政治の究極の目標であることについての認識を深めさせる。		
4	本時の評価規準	民主政治の究極の目標は、基本的人権の保障の充実、発展であることについて認識を深め、社会契約説の概念について理解し、その知識を身に付けている。【知】		
5	本 時 の 展 開 (11時間のうち2時間目)			
導 入	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	
	○本時のねらいの説明	○単元全体を見通し、本時のねらいを理解する。(2分)	○前時を振り返り、単元全体の見通しを示す。 ○【問い①】により本時のねらいの理解を深めさせる。	
	【問い①】各人が自分の利益や価値観を主張し合い、譲歩や妥協をしなかったら、どのような社会になるだろうか。			
	○社会契約説の思想背景	○ペアで協議し、協議内容を発表する。(3分)	○ペアの組合せは、生徒同士の協働、学び合いが成り立つよう十分配慮し、適宜、ペアを組み替える。	
展 開	【問い②】自然状態で最初につくるルールは何だろうか。			
	○社会契約説の思想の内容と与えた影響	○グループで協議し、根拠や理由を含めた協議内容を発表する。(7分) ※予想される生徒の回答 ・A1 命を奪い合わないためのルール ・A2 幸せに暮らすためのルール ○個人の尊重が、民主政治の究極の目標であることを理解する。(15分)	○例えば、予想される生徒の回答A1からホップズ の自然状態について、A2からロックやルソーの 自然状態について説明し、社会契約説の思想の 内容と与えた影響を整理する。 ○民主政治の究極の目標について考えさせる。 ○生徒同士の協働、教員との対話、先哲の考え方を 手掛かりに考えること等を通じ、生徒自らの考え を広げ深めさせる。 ○複数の立場や意見を踏まえて選択・判断させる。	
	【問い③】ホップズ、ロック、ルソーの社会契約説の違いについて、分かりやすい表現でまとめ説明すると、どのようになるだろうか。			
		○各自ノートにまとめた後、ペアで互いに説明し、相互評価も行う。(18分)	■評価の留意点 ・C評価の生徒への手立てとしてペアの発表から気付いたことを整理してまとめるよう促す。 ・生徒による相互評価は、A～Dの4段階及び感想等の記述により行う。 □評価方法 ノート、ペアワーク ○生徒の実態に合わせて、表現させる内容をワークシートを作成して示すなど、工夫改善を行う。	
ま と め	○政治参加や権利と義務、主権者としての在り方・生き方	○学校や地域社会等、公共的な場づくりのために、どのように自分に関わることができるか、各自ノートにまとめる。(5分)	○本時で学習した内容について、身近な生活に関わる事例を通して理解を深めさせる。 ○生徒自らに「知識を習得する意味」を理解させ、次の学習でこの知識等を活用して社会的事象や社会における課題について考えるという学習の見通しを持たせる。	

※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

<単元の評価問題の例>

問	学校祭のクラステーマについて、次に示す結論の出し方のうち、ルソーの一般意志の現れに最も近いものはどれか、1つ選び、記号で答えよ。【知】 (正解 エ)	・現代社会の諸課題をとらえ、考察し判断・選択していくために必要な概念的な枠組み等の知識の習得の状況を把握することをねらいとして出題。 ・知識、概念を身に付けさせる際、生徒の日常生活と関連付け、具体的事例を通して、政治や経済についての見方や考え方の基礎を養うようにする。
ア	クラスの生徒同士の意見が分かれ、決められなかったので、担任の先生に決めてもらった。	
イ	クラスの生徒一人一人がそれぞれ良いと思うテーマを主張して、多数決で決めた。	
ウ	学校の伝統を重んじ、過去に学校祭で使われたクラステーマを調べ、最も多く使われたクラステーマと同じものに決めた。	
エ	個人の希望ではなく、クラステーマとしてふさわしいものを一人一人が考え、できる限り議論した上で決めた。	

イ 「倫理」の学習・指導方法の例

<学習指導案の例>

1	単元名	現代に生きる自己の課題		
2	単元の目標	自らの体験や悩みを振り返るを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。		
3	本時の目標	エゴグラムを通して、自己の性格の特徴を分析するとともに、自己形成に関わる課題を見いだす。		
4	本時の評価規準	青年期の意義と課題を理解し、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方に関わる課題を見いだしている。【思】		
5	本時の展開 (6時間のうち6時間目)			
導	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	
入	○本時の説明 ○エゴグラムの説明	○本時の目標、内容について説明を聞き、内容を理解する。(2分) ○分析方法について説明を聞き、理解する。(3分)	○ワークシートを用いて説明する。 ○質問シートは事前に回答させておく。	
	<p>エゴグラム分析 質問シート</p> <p>☆点数化の方法 「よく当てはまる」:2点、「どちらもない」:1点、 「当てはまらない」:0点</p> <p><CP></p> <p>1 間違っただけに対して、間違いだと言います。 ___点 2 時間を守らないことはいやすい。 ___点 3 規則やルールを守ります。 ___点</p>	<p>・エゴグラムは、企業の人事、心療内科の治療、学校の教育相談等で活用される。交流分析により性格の特徴や、強み、弱み、職業適性等の理解の参考となる。</p> <p>・5つの領域と質問 (50項目 (10問×5領域))の例 ①CP (厳格な親の心)「規則やルールを守ります。」 ②NP (保護的な親の心)「世話好きです。」 ③A (合理的な大人の心)「冷静に判断します。」 ④FC (自由な子供の心)「好奇心が強いです。」 ⑤AC (従順な子供の心)「遠慮がちです。」</p> <p>・各領域の判定方法…20～14点=A、13～8点=B、7～0点=C ※5領域A～Cを組み合わせた総合判定は243通り (解説本等を参考に)</p>		
展	【問い①】自分の性格の特徴、強み、弱みは何だろうか。			
	○エゴグラムによる自己分析	○A～Cの判定について、教師の説明を聞き、自分の性格の特徴、強み、弱みをワークシートに記入する。(10分)	○領域ごとのA～Cそれぞれの判定について性格の特徴、強み、弱みを説明する。 ○現状の自分についての判定であり、今後、変化する可能性があることを理解させる。 ○ワークシートの記述を評価の材料とする。	
	<p>エゴグラム分析 ワークシート</p> <p>○5領域の判定 (20～14点=A、13～8点=B、7～0点=C) CP: ___ NP: ___ A: ___ FC: ___ AC: ___</p> <p>○自分のCPの特徴 _____</p> <p>○自分の性格の強み、弱み _____</p> <p>○人間関係における自分の課題 _____</p>	<p>・ペアで行う交流について、分析結果は自分の性格の特徴等のプライベートな内容であることから、ペアを組ませる際は、必ずしも座席の隣同士ではなく、友人と組ませるなど事前に話し合わせておく。また、ペアを組めないことが想定される生徒については、教師が聞き役となるなど配慮する。</p>		
○分析結果の交流	○自分の性格の特徴、強み、弱みをペアで紹介する。(3分)	○生徒同士で相談させるなど、ペアの組み方に配慮する。		
開	【問い②】青年期の意義や課題とは何だろうか。			
	○青年期の意義、課題についての考察	○単元の学習で学んだ青年期の特徴を踏まえ、解決すべき課題とは何か、グループで話し合い考察する。(12分) ○グループで最も重要であると考えた、青年期における課題を選び、ワークシートに記入する。(5分)	○複数の課題から、グループ内で最も重要と考えたものを選ばせる。 ○選んだ理由も記入させる。	
	○発表	○グループの考察を発表する。(10分)	○気付いた点をワークシートに記入させる。	
まとめ	○単元の学習のまとめ	○単元の学習について振り返り、感想及び今後の自己形成の課題をワークシートに記入する。(5分)	<p>□評価方法 ワークシート</p> <p>・単元の学習で理解したことを踏まえ、自己形成の課題及び解決策について考察した内容を評価する。【思】</p>	

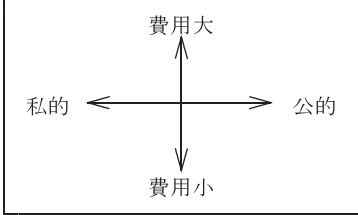
※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

<単元の評価問題の例>

問	<p>本単元の学習においては、自らの体験や悩みを振り返りながら、青年期の意義と課題を理解するとともに、豊かな自己形成に向け、自己分析などを行いながら他者と共に生きる自己の生き方について考えてきました。学習を踏まえ、自己の個性や特徴を生かし、他者とよりよい関係を培うために、あなた自身は、どのような課題を持ち、その解決に向け、どのように取り組むべきと考えますか。あなたの考えを述べなさい。【思】</p> <p>【評価「B」の記述例】</p> <p>私は、自己分析から、自分や他人にも厳しさを求める性格であることが分かりました。今後は、家族や友人との関わりにおいて、相手の立場に立った見方や考え方により、協調性を身に付けたいと考えています。</p>
---	---

ウ 「政治・経済」の学習・指導方法の例

<学習指導案の例>

1	単 元 名	現代経済の仕組みと特質	
2	単 元 の 目 標	経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。	
3	本 時 の 目 標	財政活動を行うには原資が必要であることに気付かせ、租税や国債など財源の調達方法やそれぞれの問題点を理解させるとともに、限られた財源をいかに配分すれば国民福祉が向上するかを考察させる。	
4	本時の評価規準	経済活動の在り方と福祉の向上との関連について、経済生活の変化など社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。【思】	
5	本 時 の 展 開 (21時間のうち10時間目)		
導	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
入	【問い①】「税」と「公債」の2つの言葉を使って財政を説明すると、どのような説明になるだろう。		
	○前時の復習 ○財政の役割の確認	○各自で考え、ノートに記述し、ペアで交流する。(5分)	○前時において理解する内容を復習・確認する問い①を提示し、さらに問い②につながるようにする。
展	【問い②】様々な施設(例：図書館、ショッピングセンター)のうち、政府が設置すべきものはどれだろう。		
	○政府の役割について考察	○各自で考え、ワークシートに記入する。(10分) ○グループで話し合い、グループの意見をまとめる。(20分) 板書する座標軸  ○2、3グループが発表する。(5分)	本時の学習課題を明確にすることにより、生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりする。 ○例えば、左のような板書の座標軸を利用して四つのことを整理した上で、次のような様々な視点を提示し、考察させる。 ・税金を使って実施すべきか ・財政の機能(資源配分、所得再配分、景気調整)から考えて妥当か ・市場が担うべきか 等 ○政府が実施すべきか、市場が担うべきか、個人に任せるべきか、それぞれ理由とともに自分の考えをワークシートに記載する。 ○交流する際、各自で考えた理由とともに話すなど、相手に伝わるよう論理的に話すように指導する。
ま	○政府の役割についての考察の振り返り	○ワークシートに、市場における政府の在り方、税の使い方など本時の授業から考察したことや感想をまとめる。(10分)	○市場における政府の役割を確認する。 ○限りある税の使い方を考えることの重要性を指摘する。 ■評価の留意点 ・一般的な感想に終わるなど、「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への手立てとして、展開で示した観点などから論理的に考えさせたり、自己と関連させたりすることが考えられる。 □評価方法 ワークシート
と			

※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

<単元の評価問題の例>

問 いわゆる「大きな政府」と「小さな政府」といった考え方について、あなたは、どちらの考え方を理想と考えますか。どちらかを選び、その理由とデメリットについて答えなさい。【思】

【評価「B」の記述例】

私は、「小さな政府」の方が理想と考えます。それは、政府による規制を廃止したり緩和したりできれば、競争に参加する企業が増え、競争が促進され、値下げ競争も始まり、消費者である私たちにとってよい影響が大きいからです。
デメリットは、競争が激しくなり過ぎると、混乱が起きるおそれがあることです。

・評価問題の例として、「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材(平成27年度生徒用教材)を活用できる。URL <http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/>

Topic

政治的教養を育む教育の充実について

政治的教養を育む教育においては、政治や選挙の意義について理解させるとともに、現実社会の諸課題を見だし、協働的に追究し解決する力を育成することが求められている。また、生徒が自分の意見を持ちながら、異なる意見や対立する意見を理解し、議論を交わすことを通して、自分の意見を批判的に検討し、吟味していくことが重要である。ここでは、話し合い等を通じ、生徒同士で考えさせながら選挙制度などについての学習を行った「政治・経済」の授業の取組例を示す。

- 高等学校学習指導要領解説（公民編）－対話や討議に関する記述－
- 社会の中で主体的に生きていくための人生観、世界観ないし価値観の基礎を培うことができるようにし、自己形成を促すように指導する。その際、各種の統計や意識調査の結果を利用したり、対話や討議、作文や調査などを通して指導したりすることも考えられる。（倫理）
 - ギリシアにみられる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解させるとともに、現代に生きる私たちにとっても、理性をもつ人間として、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力、異なった考えをもつ人と対話する力などを身に付けることの大切さを自覚させることが重要である。（倫理）
 - 議会政治は、対話を通して相反する意見や利害を調整し、共存の可能性を見だししていく働きをもつものとして重要な価値を保っていることや、民主主義は、多数者の意思に基づく政治を基本とするが同時に少数者の権利や意見の尊重が必要であることなどに気付かせる。（政治・経済）

■ 「政治・経済」における対話等を取り入れた授業の取組例

● 単元の指導と評価の計画の例

単元名	行政権の拡大・政党政治や選挙（全5時間）						
単元の目標	行政権の拡大や政党政治、選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させるとともに、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させる。						
次程	学習活動	関	思	技	知	学習活動における評価規準	評価方法
第1次	・行政権の拡大について、教科書などをまとめ、理解する。				◎	・行政権の拡大について現状と課題を理解している。	・小テスト
第2次	・政党についての情報を収集・選択し、まとめる。			◎		・政党に関して諸情報を収集し、適切に選択した情報を、効果的にまとめている。	・ワークシート
第3次（本時）	・選挙制度について理解し、模擬選挙を通して、選挙制度について考察する。		◎		◎	・選挙制度について理解するとともに模擬選挙を通して選挙制度の課題等を考察している。	・ワークシート
第4次（2時間扱い）	・現代の民主政治の課題を考察するとともに、解決策を追究する。	◎	◎			・民主政治の課題について考察するとともに、解決策について合理的に考えようとしている。	・ワークシート

● 学習指導案の例

本時の目標	日本の選挙制度の仕組みについて理解するとともに、民意を反映させるためのよりよい制度について考察する。																		
本時の展開	（5時間のうち4時間目）																		
過程	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点																
導入	○ 選挙の五つの原則（普通・平等・直接・秘密・自由選挙）	【問い①】 公平な選挙のために必要なルールは何か。 ○ペアで話し合う。（3分） ○数人が発表する。（2分）	○生徒の発表を五つの原則に当てはめて分類しながら、板書する。																
展開	○ 模擬選挙（架空の選挙）の実施 ○ 選挙制度についての考察	【問い②】 小選挙区制の利点や課題は何だろうか。 ○ 小選挙区比例代表並立制についての教師からの説明（小選挙区制、ドント式等）を聞いた後、ワークシートを使って模擬投票を行う。（10分） ○ 模擬投票の結果を発表する。 ○ 模擬投票の結果から、上記「問い②」について、各自で考える。（5分） ○ 上記「問い②」について、グループをつくり話し合う。（10分） ○ グループでの話し合いの内容を発表し、質問や異なる考え等を述べ合う。（5分） ○ 発表内容及び教師のまとめなどから小選挙区制の利点や課題を理解し、その後、大選挙区制と対比し、まとめる。（5分）	衆議院議員選挙模擬投票 北海道20区 <table border="1"> <tr> <th>候補者名</th> <th>公約</th> <th>政党名(略称)</th> </tr> <tr> <td>海野波</td> <td>・・・</td> <td>海党(海)</td> </tr> <tr> <td>山中登</td> <td>・・・</td> <td>山党(山)</td> </tr> <tr> <td>川上鮎</td> <td>・・・</td> <td>川党(川)</td> </tr> </table> <p><小選挙区比例代表並立制> 候補者名を記入して1回、政党名を記入して1回の合計2回投票します。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">衆議院 比例代表選出議員選挙投票</th> </tr> <tr> <td>政党その他の政治団体の名称</td> <td></td> </tr> </table> <p>衆議院 小選挙区投票</p>	候補者名	公約	政党名(略称)	海野波	・・・	海党(海)	山中登	・・・	山党(山)	川上鮎	・・・	川党(川)	衆議院 比例代表選出議員選挙投票		政党その他の政治団体の名称	
候補者名	公約	政党名(略称)																	
海野波	・・・	海党(海)																	
山中登	・・・	山党(山)																	
川上鮎	・・・	川党(川)																	
衆議院 比例代表選出議員選挙投票																			
政党その他の政治団体の名称																			
まとめ	○ 本時の学習内容の振り返り	○ 本時を振り返り、日本の選挙制度を確認し、利点や課題を、各自ノートに整理する。（10分）																	